RALLIART

GF-CP9A（エボリューションⅤ・Ⅵ RS GSR）
ノーマルキャリパー、ブレンボキャリパー装着車含む全車

RACP9310S1

テフロンブレーキライン

取付・取扱説明書

株式会社ラリーアート商品をお買い上げ頂きありがとうございます。
この取付・取扱説明書をよくお読みになり、当商品の内容をご理解された上で取付・取扱いを正しく行い、ご使用下さいますようお願い致します。
また、今後のメンテナンスの為に、この取付・取扱説明書は、お客様のお手元に置かれ、大切に保管しておいて下さい。

注意事項とお願い

●この取付要領書には次のマークを使用しています。

⚠警告 ⚠注意 警告、注意は特に重要な事項です。必ず読んでお守り下さい。

⚠警告 …… 安全の為に必ず守って頂きたいこと。
守らないと死亡や重大な重傷につながる恐れがあります。

⚠注意 …… 安全の為に必ず守って頂きたいこと。
守らないと障害や事故につながる恐れがあります。

アドバイス …… 取付の為に守って頂きたいこと。

●記載事項に従わない取り付けを行った場合は、当商品の機能等を阻害するばかりではなく、車両等の不具合につながる恐れもありますので、絶対に行わないで下さい。
●当商品は取付時 ·取付後に発生した、いかなる不具合につきましては、 責任を負いかねますのでご了承下さい。

この取付·取扱説明書は必ずお客様に渡して下さい。（大切に保管して下さい。）

9310S101

株式会社ラリーアート

構成部品（取り付け前に破損、欠品がないか確認して下さい。）

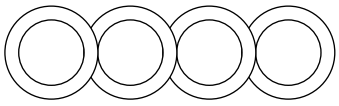
①右フロントブレーキラインASSY×1

②左フロントブレーキラインASSY×1

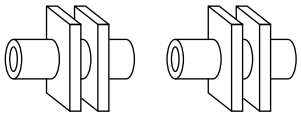
③右リヤブレーキラインASSY×1

④左リヤブレーキラインASSY×1

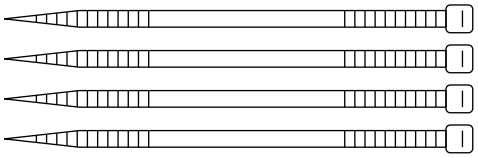
⑤銅ワッシャ×8



⑥中間止めゴム×2



⑦タイラップ大×4



⑧タイラップ小×4

取付順序（取り付け方法はノーマルと同一です。）

フロントブレーキ

1. 図1の様に、Aのバンジョウから18.5cmの所に、Cの中間止めを取付け、細いタイラップで固定します。
2. Aのバンジョウを図2の様にノーマルブレーキホースと同じ角度でキャリパーにセットし、付属の銅ワッシャとノーマルバンジョウボルトを使用して、1.5〜2.0kg-mのトルクで締め付けます。
3. ステアリングを直進状態に戻し、Bのアダプターをブレーキラインのねじれに注意して、ボディー側ブレーキホースホルダーにセットし、フレアーパイプを1.5〜2.0kg-mのトルクで締め付け、ウェイブグリップで固定します。
4. C の中間止めをストラットケースのブレーキホースホルダーにセットし、太いタイラップで固定します。

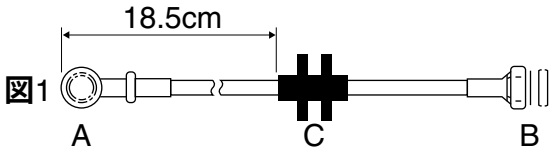


図1

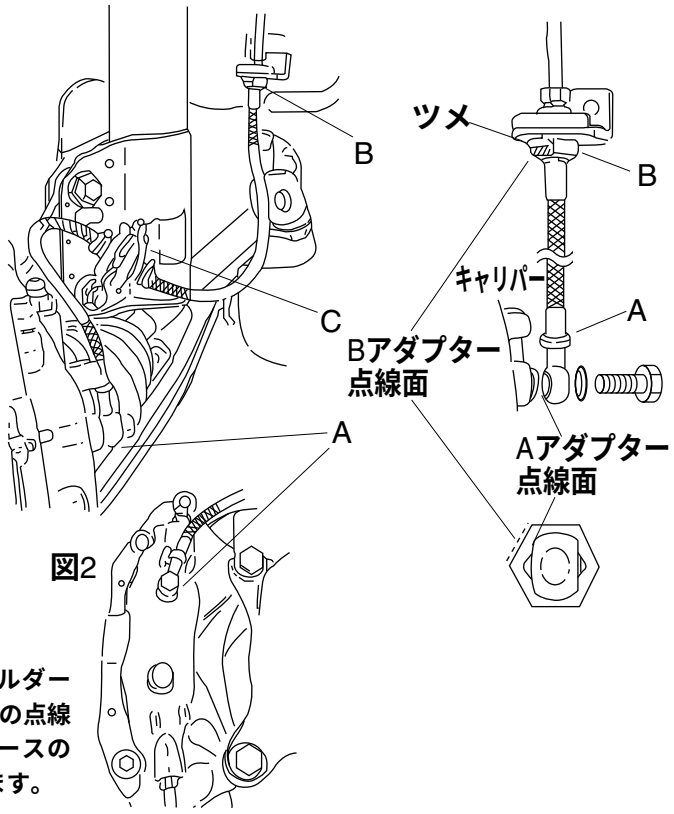


図2

※ボディ側ブレーキホースホルダーのツメ部分にBのアダプターの点線面がくるようにブレーキホースのねじれに注意してセットします。

リアブレーキ

1. 図1の様に、Aのバンジョウをノーマルと同じ方向でキャリパーにセットし、付属の銅ワッシャとノーマルバンジョウボルトを使用して、1.5〜2.0kg-mのトルクで締め付けます。
2. Bのアダプターをボディー側ブレーキホースホルダーにセットし、フレアーパイプを1.5〜2.0kg-mのトルクで締め付け、ウェイブクリップで固定します。

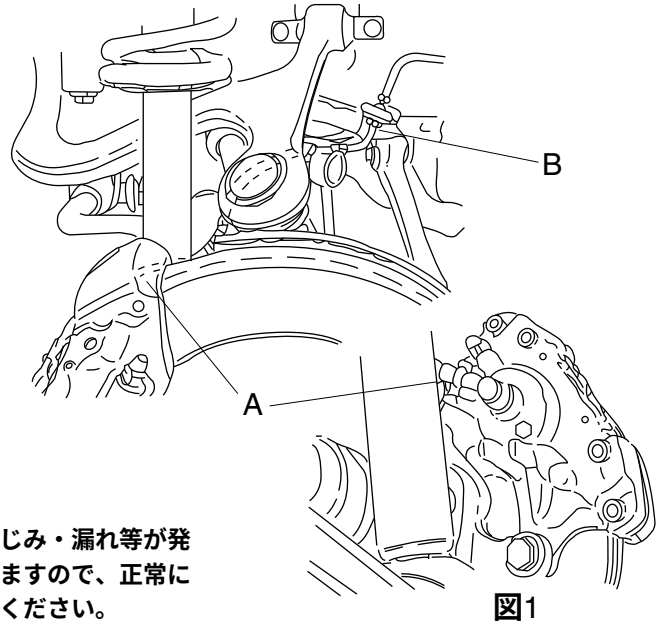


図1

※規定トルクでフレアーナットを締め付けても、にじみ・漏れ等が発生する場合は、フレア先端部分の変形が考えられますので、正常にシールする様にフレアナットの増し締めを行ってください。

お客様へ

■取扱い上の注意

⚠ 注意

1. ラリーアートテフロンブレーキラインは重要保安部品です。
2. ラリーアートテフロンブレーキラインの組み付けは、認証工場等の資格のある専門店で行って下さい。
3. 組み付け不良、エア抜き不良によるクレーム及び故障・事故による損害については、当社は一切の責任を負いません。
4. ラリーアートテフロンブレーキラインは、各車種（型式別）専用に設定されておりますので、取り付ける前に、ブレーキライン梱包箱の品番と装着車種が適合しているか必ず確認して下さい。

⚠ 警告

6. ラリーアートテフロンブレーキラインは、各車種（型式別）専用に設定されております。適応車種以外への取り付けや改造、加工は絶対に行わないで下さい。
1. 当製品はノーマル車両を基準にデータ取りされております。極端に太いタイヤ、ホイールを装着した車両や、車高及びサスペンションを変更した車両に取り付けますと、トラブルの原因となる可能性がありますのでご注意下さい。

■安全に作業を行うために

⚠ 警告　純正ブレーキホースの取り外しは、「三菱自動車発刊の整備書」に従って、認証工場などに依頼して確実に作業を行って下さい。

⚠ 注意　走行後は、ブレーキローター、キャリパー、ブレーキドラム等が高温になっていますので、十分に冷えてから作業を行って下さい。また、防具手袋等を着用して下さい。

⚠ 注意　車両をジャッキアップする場合は、必ずメーカーの指定位置にてジャッキアップし、リジットラックを使用して下さい。ジャッキアップ時はエンジンを停止し、安全が確保された平坦な場所で行って下さい。

⚠ 注意　車両をリフトアップする時は、必ずメーカーの指定位置にてリフトアップし、必ず安全装置を掛けて下さい。

⚠ 注意　本製品を確実に取り付けるために、取り外す全ての部品の状態や位置を確認し、取り付け状態を覚えておいて下さい。

⚠ 注意　純正ブレーキホースを取り外す前に、インナーフェンダーやブレーキホース取り付け部周辺のゴミや錆を取り除いて下さい。

⚠ 警告　本製品は、一部純正ブレーキホースとは長さ、形状、取り付け方法、レイアウトが異なる車種がございます。必ず取り付け説明書に従い正しく装着して下さい。

⚠ 警告　各部のボルト・ナットは「三菱自動車発刊の整備書」に記載されている指定工具、指定トルクで取り付けして下さい。

⚠ 警告　フレアーナットをゆるめる時は、必ずメーカーの指定する専用工具を使用して下さい。

⚠注意 フレアーナット、バンジョウボルト（ユニオンボルト）の締め付けは指定トルクに従い締め付け、必ずトルクを確認して下さい。

⚠注意 銅ワッシャは必ず付属の物を使用し、再使用はしないで下さい。一部車種については純正のウェイブクリップ（ロックプレート）を付属の物と交換して使用して下さい。

⚠注意 バンジョウボルト（ユニオンボルト）・ウエイブクリック（ロックプレート）を再利用する場合、組み付ける前に必ず清掃、洗浄を行い、外傷等の異常がある場合には新品と交換して下さい。

⚠警告 フレアーナット先端部分が図1の様に変形し、フィッティングに締め付けられない場合は、必ず図2の様に正常な形状に修正して締め付けて下さい。無理に締め付けますとフレアーナット・フィッティング共にネジ部分を破損する場合があります。

図1 変形

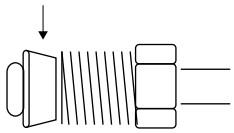
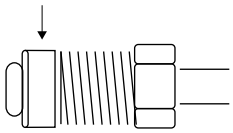


図2 正常



■取り付け状態の確認

⚠警告 取り付け後、各部品が正しく取り付けられているか確認して下さい。また、ステアリングを左右に切った際にブレーキラインがボディー、サスペンション、ドライブシャフト等と接触していないか、無理なねじれが無いか確認して下さい。

■エア抜き作業について

⚠警告 エア抜き作業の手順は「三菱自動車メーカー発刊の整備書」に従って正しく行って下さい。
ABS付きの車両は、専用の設備が必要な車種がありますのでご注意下さい。

⚠注意 抜き取ったブレーキフルードは再使用しないで下さい。

⚠注意 ブレーキフルードはボディー等の塗装面に付属させない事、万一付着した場合は素早く拭き取り、水洗いして下さい。

⚠注意 エア抜き作業修了後ブレーキパーツクリーナー等を使用し、ローターやキャリパー及びブレーキラインまわりに付着したフルードを洗浄して下さい。

⚠注意 エア抜き作業を行い、タイヤを取り付けた後に再度ステアリングを左右に切りブレーキラインがタイヤ、ホイールに接触していない事を確認して下さい。

⚠注意 ノーマルホースと比較して踏みしろが浅くなりますので、車両によってはストップランプスイッチの点灯タイミング調整が必要な場合があります。ブレーキペダルを踏んで、正常に点灯するか、確認して下さい。

■装着後の取扱いについて

日常点検について

法律で定められている日常点検を励行して下さい。

・ブレーキペダルの踏みしろ
・ブレーキのきき
・ブレーキリザーバータンクの液量（ブレーキ関係抜粋）

交換推奨時期

純正ブレーキホース交換指定時期は初回5年、その後4年ごととなっております。

メンテナンス

ブレーキフルードの液量、汚れ、漏れ等を定期的に点検して下さい。
ブレーキフルード交換推奨時期は2年です。（DOT5を除く）凍結防止剤を散布する場所では腐蝕が著しい場合がありますので走行後は必ず洗浄して下さい。

ブレーキ警告灯

通常はパーキングブレーキ戻し忘れ警告灯ですが、走行中点灯した場合は、ブレーキフルードの残量が極端に減少した事を示しますので、走行をやめ安全な場所に停止し、必ずブレーキフルードの残量、漏れ等を確認して下さい。

お願い

・ラリーアートテフロンブレーキラインの交換は、認証整備工場等の資格のある場所で行って下さい。
・ラリーアートテフロンブレーキラインは、用途に合わせた消耗品です。日常点検を行い、フルードの漏れや取り付け部の緩み及びワッシャーの劣化、損傷の症状が発生した場合は、そのまま走行せずに新品と交換して下さい。
・一般通常の条件において使用された場合の、経年変化による外傷、機能上のクレームについては応じかねますので予めご了承下さい。また、レース、ラリー等の競技に使用した場合、取り付け上の不備、日常点検を怠り発生した破損事故等については当社は一切の責任を負いません。